

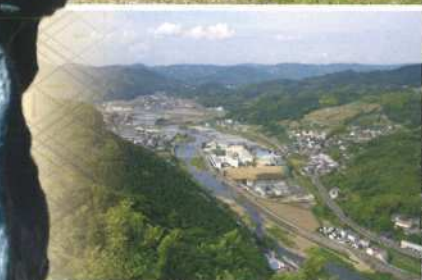
磁祖

かとうたみきち 加藤民吉 フォーラム

入場
無料

申込不要

どなたでもご参加
いただけます



2022年に、瀬戸の磁祖である加藤民吉が誕生してから250年を迎えます。この記念すべき年に向けて、再度「民吉」という瀬戸の貴重な財産を、文化・芸術・観光・産業・教育などあらゆる面で瀬戸の新しいまちづくりに活かしていくことを目的に、民吉についてあらためて考察するとともに、その功績や精神から学ぶフォーラムを開催します。

フォーラムⅠ

目的 民吉の功績について再考し、瀬戸の歴史と歩みを振り返りながら、民吉の真実や時代背景などを掘り下げます。

日時 令和元年12月8日(日)
開場:午後1時30分/開演:午後2時

会場 瀬戸市文化センター3階31会議室(瀬戸市西茨町113-3)

第1部 講演会 午後2時~3時

講演①「瀬戸染付 初期の様相」 講師:仲野泰裕氏
講演②「加藤民吉の生涯」 講師:山川一年氏

内容 **第2部** シンポジウム「磁祖・加藤民吉について考える」
午後3時10分~4時15分

〈パネラー〉

山川一年氏(元歴史民俗資料館館長)
仲野泰裕氏(元愛知県陶磁美術館副館長)
谷口雅夫氏(元(公財)瀬戸市文化振興財団事務局長)

〈コーディネーター〉

旭堂鱗林氏(講師/瀬戸市広報大使)

フォーラムⅡ

目的 民吉の功績を、瀬戸の新しいまちづくりなどにどう活かしていくのか、瀬戸の未来像を発信します。

日時 令和2年1月19日(日)
開場:午後1時/開演:午後1時30分

会場 瀬戸蔵つばきホール(瀬戸市蔵所町1-1)

第1部 講演 午後1時30分~2時

「磁祖・加藤民吉物語」
旭堂鱗林氏(講師/瀬戸市広報大使)

内容 **第2部** シンポジウム「民吉から学ぶ瀬戸の未来(仮題)」
午後2時~3時30分

〈パネラー〉

桂 武弘氏(日本旅行総研主任研究員)
古池嘉和氏(名古屋学院大学現代社会学部教授)
中崎 毅氏(水野中学校校長)
伊藤保徳(瀬戸市長)

〈コーディネーター〉

旭堂鱗林氏(講師/瀬戸市広報大使)

◆ご来場の方に民吉が修業した佐々町(長崎県)認定特産品『民吉もなか』を先着でフォーラムⅠでは100名、フォーラムⅡでは200名にプレゼント



瀬戸の磁祖・加藤民吉

瀬戸の大松窯の窯元・加藤吉左衛門の次男として生まれた加藤民吉は、当時の瀬戸窯を保護する窯屋仲間の取り決めのために家業の窯業を継げずにいました。そして父・吉左衛門と共に、名古屋の熱田で新田開発に従事していたところを尾張藩熱田奉行、津金文左衛門の目に留まり、彼の研究していた南京焼と呼ばれるやきものの研究を手伝うこととなります。この南京焼こそ、いわゆる染付磁器のことでした。そして享和元(1801)年9月、ついに盃、小皿、箸立など小品ではあるものの染付磁器の製造に成功しました。しかし素地や釉薬など、まだ問題点は多く、肥前のような良質で高級な磁器を焼くことはできませんでした。

そのため、文化元(1804)年の早春、民吉は尾張藩や瀬戸の窯屋連中の支援の下、天草東向寺(曹洞宗)の天中和尚(愛知県菱野村出身)を頼って、当時磁器生産の先進地であった九州へ単身修業の旅に出ます。そして苦労と努力の中で磁器素地の精製法、釉薬の調合法、丸窯による焼成法などを習得した民吉は文化4(1807)年瀬戸に戻ってきました。

こうして民吉の帰郷によって伝えられた肥前磁器の製造法のおかげで、瀬戸の染付磁器は急速に進歩し、発展してきました。こうした業績をたたえ、民吉は瀬戸の「磁祖」として窯神社に祀られ、毎年9月の第2土・日曜日には「せともの祭」が開催されています。



民吉年表

安永元年 (1772)	尾張国瀬戸村吉左衛門の次男として生まれる。
享和元年 (1801)	父、吉左衛門とともに熱田にて新田開発に従事する。 染付磁器の試焼を行う。
文化元年 (1804)	九州へ修業の旅に出る。
文化4年 (1807)	瀬戸へ帰る。
文化5年 (1808)	一代限り苗字を許される。 加藤民吉と名乗る。
文政7年 (1824)	52歳で没する。
文政9年 (1826)	加藤民吉を窯神遥拝所に合祀する。

民吉の九州ゆかりの地

加藤民吉は、文化元年(1804)2月に九州修業に出発します。約1か月をかけて九州・天草に到着し、以後、天草・高浜の上田源作窯や三川内で修業し、最終的には佐々・市の瀬皿山窯で修業し、磁器技法の習得に励みました。

佐々 市の瀬皿山窯跡



民吉が約2年間修業した窯

天草 東向寺



民吉の九州修業の拠点となった寺

天草 高浜皿山窯跡



民吉が九州で最初に修業した窯



【主催】瀬戸市制施行 90 周年 磁祖加藤民吉顕彰事業実行委員会 / 瀬戸市

■お問い合わせ：瀬戸市地域振興部文化課 TEL 0561-84-1093

【瀬戸蔵へのアクセス】 TEL:0561-97-1555

- 【電車】JR名古屋駅から(所要時間約1時間)
地下鉄東山線で「栄」へ。名鉄瀬戸線に乗り換え「栄町」から「尾張瀬戸」下車。徒歩5分。
- 【車】「名古屋I.C.」「長久手I.C.」から(所要時間約30分)
東名高速道路「名古屋I.C.」「長久手I.C.」を降りて瀬戸方面へ。グリーンロード「愛・地球博記念公園」または「八草I.C.」まで行き、左折(北)し、瀬戸市街地へ。
- 「せと赤津I.C.」から(所要時間約10分)
東海環状自動車道「せと赤津I.C.」を降りて瀬戸方面へ。
- 【コミュニティバス】中心市街地線「記念橋」バス停下車。

【瀬戸市文化センターへのアクセス】 TEL:0561-84-1903

- 【電車】JR名古屋駅から(所要時間約1時間)
地下鉄東山線で「栄」へ。名鉄瀬戸線に乗り換え「栄町」から「尾張瀬戸」下車。徒歩13分。
- 【車】「名古屋I.C.」「長久手I.C.」から(所要時間約30分)
東名高速道路「名古屋I.C.」「長久手I.C.」を降りて瀬戸方面へ。グリーンロード「愛・地球博記念公園」または「八草I.C.」まで行き、左折(北)し、瀬戸市街地へ。
- 「せと赤津I.C.」から(所要時間約10分)
東海環状自動車道「せと赤津I.C.」を降りて瀬戸方面へ。
- 【コミュニティバス】上之山線「文化センター」バス停下車。



THE CITY OF GOKISO
BETSU, JAPAN
いいもん
せともん
日本産のまろ
瀬戸市

